東京都新技術情報データベース特集

周知とインセンティブ 良いサイクル循環を

Interview

東京都土木技術支援・人材育成センター
技術支援課長
荒井 徹（あらい とおる）氏

東京都建設局は民間の優れた技術を新技術情報データベース、通称・NeTIDa（ネティダ）に蓄積し、ウェブ上でオープンにすることで工事への活用を促している。稼働から20年余りの間に延べ437件の新しい技術を登録し、現在は245件の特徴や採用実績といった情報を公開。都庁内の技術系職員へ周知するとともに、新技術を採用した施工者に工事成績評定で加点するなど、受発注者に有益な技術を提供している。運用に携わる土木技術支援・人材育成センターの荒井徹技術支援課長にNeTIDaの申請と登録の推移や活用の取り組みを聞いた。

―NeTIDaの沿革や目的を聞きたい。

「インフラの整備や管理では、標準化された技術を用いることが大半な一方、社会環境の変化や都民ニーズの多様化・高度化に対応するためには、コスト縮減をはじめ効率的・効果的な施工を可能にする新技術の活用が欠かせない。建設局ではNeTIDaの運用を通じ、民間が開発した新技術を都庁内での情報共有と、受注者による活用の促進に取り組んでいる」

「1998年度に『新技術評価選定取扱要領』を策定し、新技術の開発者から提案を受けて情報収集したことが始まりだ。提案を受ける新技術は、建設局の事業で効果が期待できるものを評価・選定し、データベースに格納している」

―提案・登録の実績と最近の傾向はどうか。

「開始以来、登録した技術は延べ437件。その後、提案者の意向で削除したものがあり、現在245件が公開されている。ここ3年間の件数の推移は、申請件数は2019年度が24件、20年度が36件、21年度が21件となる。登録件数は19年度が5件、20年度が12件、21年度が6件だ。NeTIDaの存在や登録した技術が工事に反映されて次第に理解が広がっていると考える」

―新技術の申請と受け付ける際の特徴はあるか。

「まず提案者の担当の方に直接ヒアリングし、提案技術書の作成・提出を求めて『取扱要領』の目的に内容が合致しているかどうか内容確認後の回答はメールでやり取りしている。ヒアリングも事前の論点整理を心掛けている」

―NeTIDaのアクセス状況と工事での採用実績はどうか。

「ホームページへのアクセス状況は、21年度が約6000件、1カ月当り平均で450～550件だ。20年度の約5500件から少し伸びている。採用件数については、直近では2年前の18年度に新規登録された技術がどれだけ採用されたかを調べている。18年度に16件の登録があったが、この2年間で建設局関連の工事で9件、他局で17件採用された」

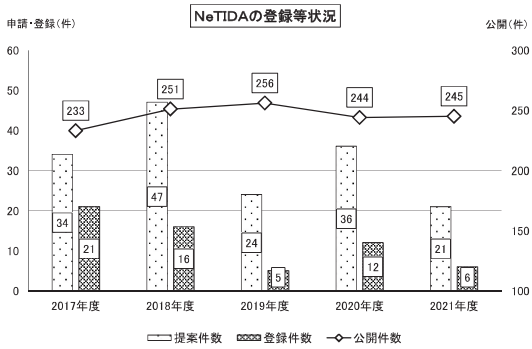
「建設局関連の9件の工事では、河川護岸の耐震補強工事で、既設RC構造物へのあと施工せん断補強に関する工法が多く採用された。また、道路舗装で、将来のひび割れを抑制するシート材が補強材として使われている」

―NeTIDaの登録技術に特徴はあるか。

「われわれの使命は首都東京の都市活動を支える道路、河川、公園などの都市インフラを省資産に整備して適切に維持管理すること。ただ、都市部の現場は狭隘（きょうあい）で施工ヤードが限られていたり、都民生活への影響を極力少なくするため早期の交通開放が求められたりする。こういった状況の中で事業の熟行に効果のある技術が多く登録されている」

―申請、登録する技術を拡大するために必要なことは。

「活用を促す取り組みとして、定期的に調査を行い、できるだけ最新の情報に更新し、引き続き使いやすいシステムにしていく。発注者である庁内の職員には、新技術が登録された後、資料や連絡会を通じて技術の概要を周知している。施工する会社の側にも新技術を知ってもらうことが肝要だ。都の発注工事では、新技術を採用して施工した場合、工事成績評定の加点措置の対象となる。引き続きこのような取り組みを進めて技術の登録につなげ、成績評定で採用を増やすというサイクルにつなげたい」

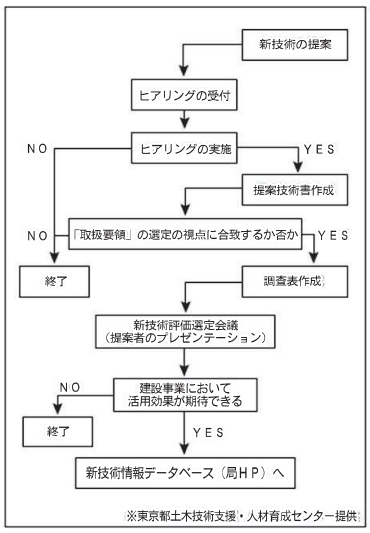


※各年度の登録案件には、前年度までに提案されたものも含む。

NeTIDA2021年度登録技術

登録番号	名称	副題	提案者	分野	区分
2021001	アステープ工法	両面粘着テープによる加熱不要な舗装材接着工法	株式会社石川建設	道路	工法
2021002	吸引掘削システム	吸引車にて土砂を掘削する工法	山美津電気株式会社	共通	工法
2021003	JRC再生土	環境負荷の少ない中性域にph調整された改良土	株式会社ジャパンリコロジー	共通	材料
2021004	循環式エコクリーンブラスト工法	産業廃棄物と砂じんの発生を最小限に抑えたブラスト工法	一般社団法人日本鋼構造物循環式ブラスト技術協会	道路	工法
2021005	桁端部側方型充填工法	PC・RC橋の桁端遊間部の漏水対策	中井商工株式会社	道路	工法
2021006	快適歩走	歩行者系薄層弾性舗装	日本道路株式会社	共通	工法

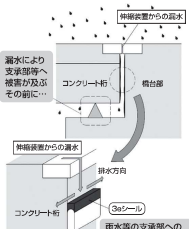
NeTIDAトップページ



※東京都土木技術支援・人材育成センター提供

交通規制無しで施工可能・取替不要の伸縮装置漏水対策

桁端部側方型充填工法『3eシール』



特徴

伸縮装置の漏水対策に革命!
これまで不可能とされていたコンクリート橋の漏水対策が伸縮装置取替不要で可能に。

既設構造物の長寿命化!
桁遊間内に防水ラインを形成することで、雨水等の支承部への流入をシャットアウト!橋梁の予防・事後保全として期待できます。

交通規制が不要!
作業は全て桁方からの工法なので、規制の時間に寄与でき、さらに騒音も少ない工法です。

中井商工株式会社 東京営業所
〒275-0014 千葉県習志野市鷺沼4-2-22
TEL.047-408-2220 FAX.047-408-2221
https://www.nakaishoko.co.jp/ketatan/

NETIS番号 KK-180028-A
新技術登録番号 2021005